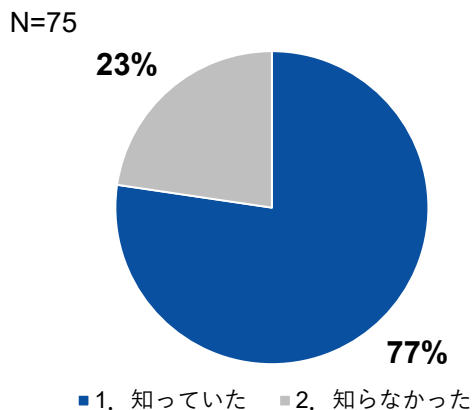


1. 包装及び包装廃棄物規則（PPWR）に関する調査
 - 1-2. 国内事業者における課題

国内の食品事業者におけるPPWRに対する課題認識の現状

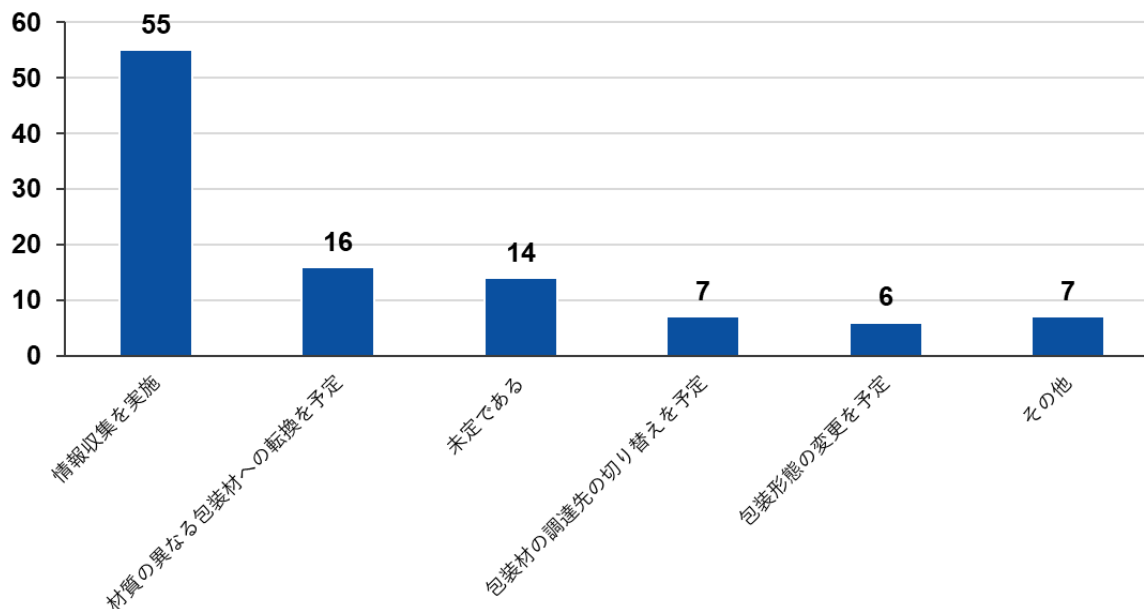
- PPWRの適用開始を2026年8月に控え、各要件に対する議論が進んできているが、具体的な下位規則等は公表されていない。2025年の最新動向については、1-6参照のこと。
- 本事業で実施したアンケートでは、PPWR自体の認知度は7割であった。要件によっても認知度は異なるが、半数以上は要件の内容も認識している。

PPWRの採択を認識していたか



PPWRに関する対応検討状況

N=75 (複数回答)



その他 (自由回答)

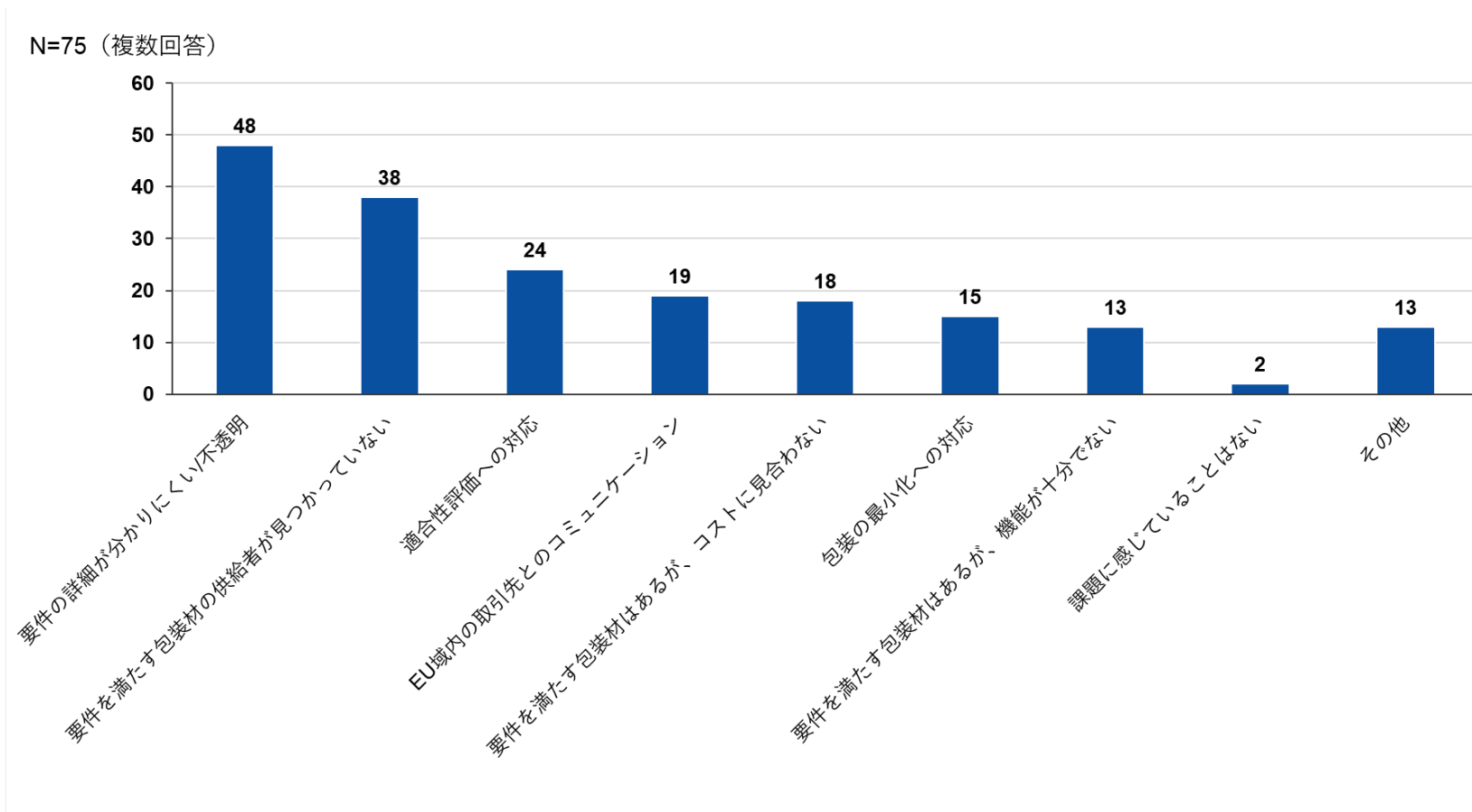
- 資材の切り替えを検討しているが、国内では用意できないと聞いている
- 探しているが、国内に無い。またメーカーの規格製品がないと、ロットが大きく厳しい。
- 包装材製造メーカーとの協議中・検討中である
- 検討はしているが、今の日本基準では非常に難しい

出所：2025年11月～12月にかけて実施したアンケート調査結果（対象：日本からEUに向け、輸出上位品目を輸出している食品事業者・商社）より作成

国内の食品事業者におけるPPWRに対する課題認識の現状

- PPWRに対する課題として、事業者からの指摘されている課題は主には以下のとおり。
 - 要件が不明である・不透明である
 - 要件を満たす包装材の供給者が存在しない
 - 適合性評価への対応

PPWRに対する課題認識



出所：2025年11月～12月にかけて実施したアンケート調査結果（対象：日本からEUに向け、輸出上位品目を輸出している食品事業者・商社）より作成

日本からEU向けに輸出される農産物・食品の包装の実態

- 今年度本事業で実施した包装の実態に関するヒアリングにおいては、以下のような意見が確認された。

実態① 品質維持のための多層フィルムの活用

- ✓ 日本からEU向けの農産物・食品の輸出上位品目では、特性の異なる複数の素材で構成された機能性フィルムである多層フィルムを活用する事例が多く確認された。

実態② 品質保持期間の延長

- ✓ EUで販売するためには、品質保持期間を一定期間以上にするよう要求があり、従来の国内品と比較して品質保持期間をかなり延長する必要がある場合がある。
- ✓ 仮に包装を転換する場合には、各製品の品質を維持できるかどうかの試験を実施する必要があるため、一朝一夕には包装の転換を実施することは難しい。

実態③ 輸出向けの包装の選定

- ✓ 現状、輸出向けとして敢えて包装材を使い分けていないという事業者の声も散見された。包装材をある程度ロットで購入して他地域・他国向けに利用している事例も見聞きした。
- ✓ また、包装するためのラインも分けて管理していないという事業者の声も確認された。

軟包材の循環性を高めるうえで期待される技術

- 食品包装材としても広く利用されている軟包装のリサイクルにおける課題は、従来のメカニカルリサイクルでは分離・脱汚染が困難な多重構造・複合材料で構成されていることが多い点である。他分野においてもリサイクルプラスチックの活用が進む中で、食品包装材におけるプラスチック材の量・質を確保するためには技術のブレークスルーが1つの鍵である。
- CEFLEXは、軟包材の循環性を向上させるための剥離、脱墨などの循環性を向上させるための有望技術について、下表に示す通り整理している。PPWRが進めるようなリサイクル設計、リサイクル材の最低含有などにも関連しているこれらの技術の発展が望ましい。
- 国内でもCLOMA(英文名: Japan Clean Ocean Material Alliance)など、容器包装プラの循環に関する議論が進められており、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めイノベーションを加速していくことが期待される。

軟包装材を循環させるうえで期待される新規技術（EUにおける整理例）

技術群	2030年までのEUにおけるポテンシャル能力	潜在的なEUにおけるインパクト	CEFLEXの掲げるリサイクル戦略への貢献
高度な湿式摩擦洗浄	市場浸透	より良い質のフィードストック	メカニカルリサイクルへの技術のアドオンが可能
剥離	50-100 千トン	より良い質 より高いリサイクル率	より高い品質へ貢献 リサイクル率の上昇
脱墨	50-100 千トン	より良い質	より良いメカニカルプロパティ、色、匂い
抽出	20-100 千トン	より良い質	最高水準の要求を満たす適用品質 接触材として耐えうる品質
溶解	250 千トン	より良い質 より高いリサイクル率	最高水準の要求を満たす適用品質 接触材として耐えうる品質

出所：CEFLEX, “New Recycling Technologies-Advancing Circularity in Flexible Packaging” (2025年5月) より作成